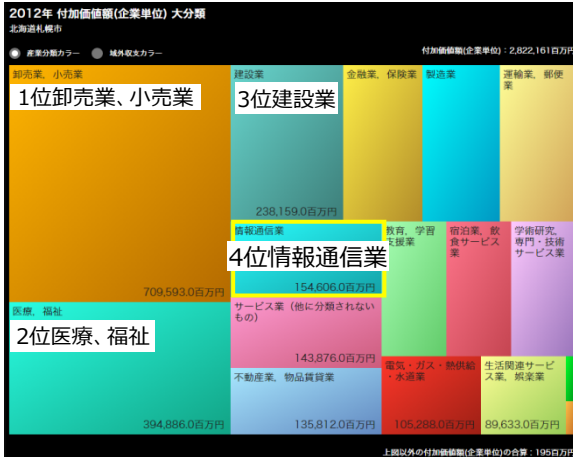


札幌市におけるIT産業高度化の方向性検討に係る分析（概要版）

IT産業の振興に取り組む札幌市では、RESASを活用し、自地域におけるIT産業の優位性や課題を把握するとともに、食品加工関係に強みを有する近隣の自治体を特定。「食×IT」の産業間連携を促進し、新たな製品やサービスの創出などによる高度化・高付加価値化を検討。

1. 札幌市におけるIT産業の優位性

(図1)「産業マップ：全産業花火図 大分類 産業分類カラー」
札幌市 付加価値額（企業単位）2012年
(データ出所:総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工)



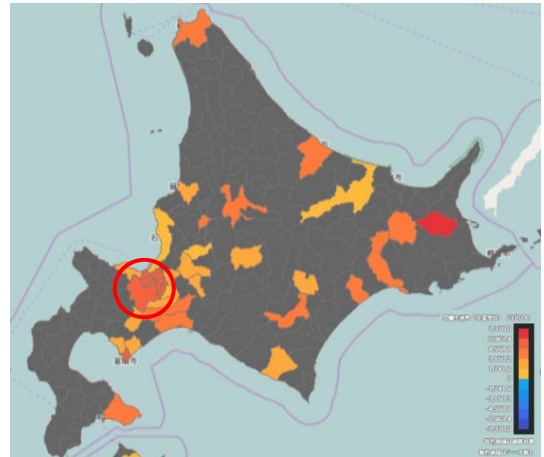
【分析のポイント】

- IT産業の位置付けを確認するため、以下を比較。
 - 市内他業種との付加価値額※1（1社あたり）
 - 道内他市町村との労働生産性※2（1社あたり）

【分析結果】

- IT産業(情報通信業)の付加価値額は1,546億円。卸売・小売(7,096億円)、医療・福祉(3,949億円)、建設(2,382億円)に次いで4番目(図1より)。
- 道内他市町村と比べて、労働生産性が高い(図2より)。

(図2)「自治体比較マップ 労働生産性（企業単位）」
札幌市 2012年 情報通信業
(データ出所:総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工)

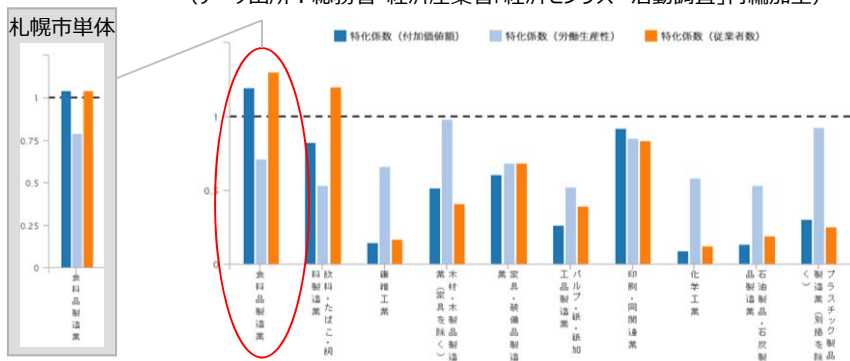


【得られた結論・今後の展開】

- 札幌市のIT産業の優位性が確認された一方、北海道ITレポート2014（(一社)北海道IT推進協会）によると、道内IT産業の売上高の約5割が受託開発であり、業界や景気の動向に左右されやすいとの指摘あり。
 - 課題解決に向けては、ITを活用した新たなサービスの創出など高度化・高付加価値化が必要。
- (※1)付加価値額とは、地域の産業がどれだけ稼いでいるかを表す指標
(付加価値額 = 売上高 - 費用総額 + 給与総額 + 租税公課)
- (※2)労働生産性とは、どれだけ効率的な生産を行っているかを表す指標
(労働生産性 = 付加価値額 / 従業員数)

2. IT産業の高度化・高付加価値化

(図3、4)「産業マップ：稼ぐ力分析 産業別特化係数」2012年 製造業 札幌市単体及び札幌市ほか7市町
(データ出所:総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工)



【分析のポイント】

- 他産業におけるIT活用を促進するため、市内及び周辺地域における他業種の特化係数※3（付加価値額、労働生産性、従業員数）を比較。

【分析結果】

- 札幌市の食料品製造業出荷額は全道1位、全国10位と大規模（自治体比較マップ）であるものの、市内業種別の特化係数では、付加価値額・従業員数は全国平均並で、労働生産性も低い(図3より)。
- 一方、札幌周辺地域を含めて食料品製造業を比較すると、札幌市単体よりも付加価値額、従業員数の特化係数は高くなるが、依然として労働生産性の低さが課題(図4より)。

【得られた結論・今後の展開】

- 札幌市が強みを有する食料品製造分野では、札幌市単体で見ると全国水準並のポテンシャルであるが、周辺地域との連携により、付加価値額、従業員数が全国水準を大きく上回る分野となる。
- 一方、労働生産性の低さが課題であることが浮き彫りになったため、その解決方策として、ITの活用が効果的と考えられる。
- IT産業と食料品製造業の産業間連携を促進することにより、IT産業の高度化・高付加価値化が図られ、食料品製造業の労働生産性の向上にも寄与する等、相互の課題解決が期待できる。